

キャリア開発支援

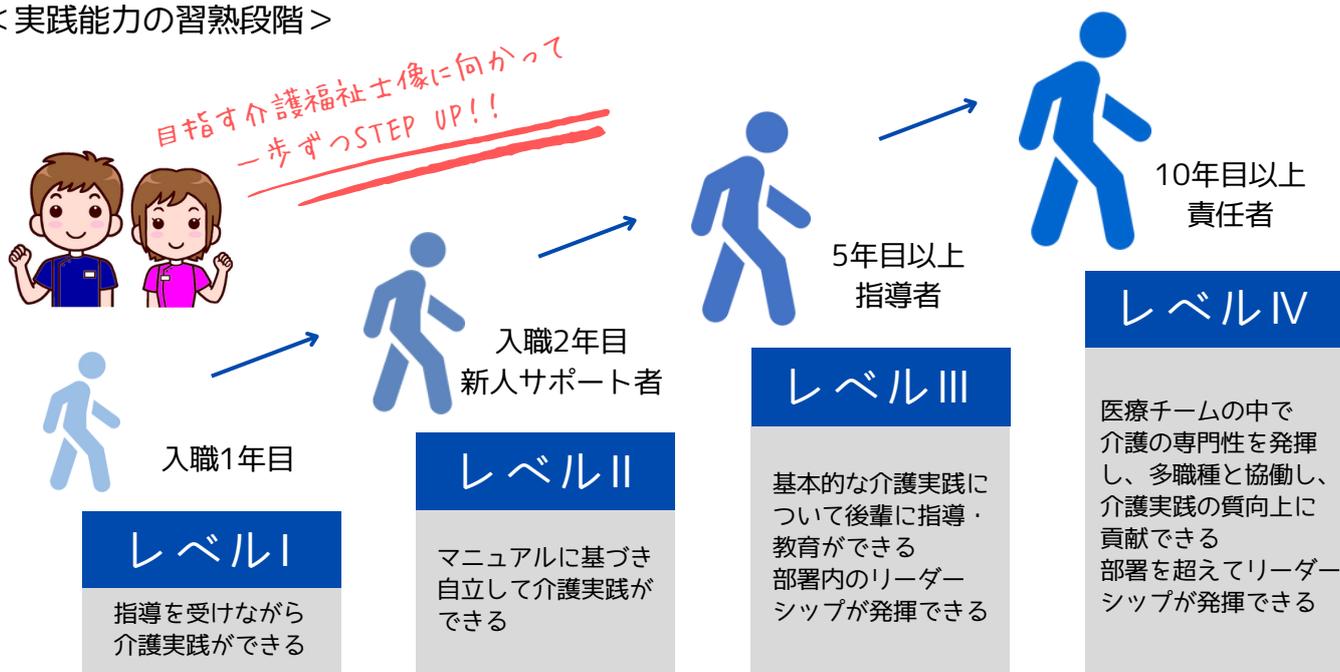
「介護福祉士は、常に専門的知識・技術の研鑽に励むとともに、豊かな感性と的確な判断力を培い、深い洞察力をもって専門的サービスの提供に努めます。（日本介護福祉士会倫理綱領）」とあるように、専門職である介護福祉士は、良質な介護サービスを提供するために、自己研鑽することが求められます。

豊橋市民病院 看護局では、同じく専門職である看護職員のキャリア開発支援で培ってきたノウハウを活用し、介護福祉士においても教育的視点でサポートする体制づくりに力を注いできました。そして、目指す介護福祉士像に向かって、段階に応じた能力が獲得できるように介護福祉士ラダーを立ち上げています。

このラダーにおいて、当院の介護福祉士の求められる実践能力の構成要素を介護実践能力、組織的役割遂行能力、教育・研究能力の3つとしています。習熟段階は4段階、それぞれに到達目標を設定しています。

豊橋市民病院 介護福祉士ラダー

<実践能力の習熟段階>



<介護福祉士に求められる実践能力>

適切な患者サービスを提供するために組織における自己の立場を認識し、役割遂行ができる能力

組織的役割遂行能力

自らの能力を開発するとともに、よりよい患者サービスのため後輩を育成し、介護の専門性を探求・発信することができる能力

教育・研究能力

介護実践能力

- ①その人らしさを捉える力
ICFの視点に基づいて情報を収集することで患者さんの全体像を客観的かつ全人的に捉え、真のニーズに応じた介護を創造する能力
- ②生活行動を支える力
根拠のある正確な介護技術を基盤に、医療の場での安全性を確保したうえで、患者さんの自立・自律に向けて介護を展開する能力
- ③暮らしていくことを支える力
患者さんのニーズに対応したよりよい暮らしの実現のために、患者さんを取り巻く人々（家族やサポート者、院内外が多職種など）と協働したり、働きかけたりできる能力